

アジア太平洋運輸フォーラム2024への参加

2024年5月14日

2024年5月14日（火）～17日（金）に、アジア開発銀行（Asia Development Bank：ADB）主催のアジア太平洋運輸フォーラム2024（Asia and Pacific Transport Forum 2024：ATF2024）がADB本部（マニラ）にて開催され、14日の「海事脱炭素」をテーマにしたセッションに当研究所から谷口研究員が参加しました。

ATFは、ADBが本部にて2年に一度開催する国際フォーラムです。2008年の初開催以降、アジア太平洋地域の交通運輸専門家とセクター関係者が集まり、国際的なベストプラクティスや知見を共有できるイベントとなっています。毎回テーマを設定しており、近年は脱炭素化を含む環境対策が多い傾向にあり、今回は「すべての人のためのクリーンな交通」をテーマに、気候銀行（climate bank）としてのADB、交通セクターが脱炭素化できる方法と交通インフラの気候耐性を確保する方法に焦点を当てて開催されました。

セッションでは、各パネリストからプレゼンを行った後、モデレーターの主導によるパネルディスカッションが行われました。

初めに、モデレーターを兼務した上席地域海事専門家のR. Duncan McIntosh氏（ADB）からプレゼンを行い、世界の貿易における海運の重要性や国際海事機関（IMO）で採択された海運からの脱炭素に向けた戦略に触れつつ、途上国やアジアの海上輸送量は増加しており、これらの排出削減が重要であると強調しました。また、海事分野の脱炭素には多大なコストがかかることから、ADBではグリーンポート海事脱炭素基金の創設を提案していることを紹介しました。

次に、経済調査及び開発影響部アドバイザーのYesim Elhan-Kayar女史（ADB）から、アジア地域の輸送量が増加する中、船舶の着岸前の待機時間が増加してきており、この待機時間の解消がGHG排出削減に寄与するポテンシャルにつ

いて紹介があるとともに、待機時間の解消には、短期から長期にかけて産業間の協調が必要となることが強調されました。

続けて、地域協力・統合・通商部課長のCyn-Young Park女史（ADB）から、貿易量とCO₂排出の相関関係に触れつつ、製品製造・貿易に関してアジアの存在感が増す中、カーボンプライシング（炭素課金）の必要性、環境配慮製品・サービスに対する優遇などの政策案が紹介されました。

更に、運輸専門家であるYang Lu氏（ADB）から、中国の河川におけるグリーンポート及び電気推進船の実証プロジェクトとADBの関与について紹介がありました。

最後に、谷口研究員から、運輸総合研究所の取組について紹介するとともに、国際海運の脱炭素に向けた燃料転換に関する調査研究の成果を発表しました（内容は前号特集に掲載）。

パネルディスカッションでは、燃料転換におけるLNGの位置づけや燃料転換に付随する他の課題、港湾からのGHG排出削減に向けた課題、課題に対するADBの対応について質疑がありました。また、最後にモデレーターより、質疑を通して海事からの脱炭素には様々な課題があり、産業を超えた協力が必要であり多大な投資が必要であること、この中で特に途上国や島しょ国への支援が重要であり、ADBとしてこれら支援に関与していくことが重要であるという総括がありました。



発表する谷口研究員

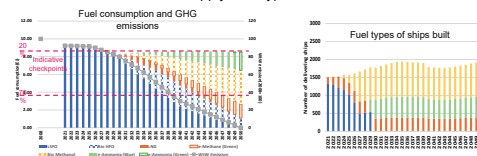


質疑で対応する谷口研究員（右から1人目）

【Maritime】 Research on the framework for decarbonization of international shipping

Possible Fuel Carbon Intensity Regulations for international shipping 2022-2023

- Analyze and assess quantitatively the impact of fuel transition by possible GHG fuel intensity (GFI) regulations
- Consider the pathway of fuel transition in order to achieve IMO GHG Strategy for the international maritime industry, including deployment and procure fuels
- Total 24 cases are simulated by combining several scenarios such as shipping demand, alternative fuels supply and hypothetical GFI lines.



This result was submitted to the IMO as an Information Paper for consideration in the drafting of the GHG Fuel Standard.

谷口研究員が発表した研究結果の一部